

えりも町議会

議会だより

平成30年8月1日

No.26



P 2 平成30年度6月定例会

補正予算・条例改正 ほか

P 3～6 一般質問

一般質問 5名 8件

P 7 議員と語る会

P 8 先進地行政視察報告

苫前町「風力発電事業」、石狩市厚田「厚田港朝市」

P 9 議員研修

P 10 所管事務調査報告

庶野放課後児童クラブ・庶野小トイレ・苫別橋

P 11 フットパスの集い

P 12 「この人に聞く」

えりも岬小学校事務職員 鎌田 澄夫さん



えりも町議会第1回定例会

補正予算

◎平成29年度 一般会計(歳出)

・ふるさと納税返礼品

▲4622万円

寄附件数減少によるもの

・財政調整基金積立金

5000万円

ふるさと納税寄附金の一部を積立

・優良肉用繁殖素牛

導入事業

▲1800万円

年度途中からの事業の為に利用者が少なかった事による減額

・診療所特別会計繰出金

6250万円

診療収入の減少等

◎平成30年度 一般会計(歳出)

複合施設整備

検討委員報酬

16万5千円

当初10名から一般公募4名を含む16名となったことによる増額

・業務委託

1126万円

複合施設用地の地盤調査及び測量

・全道大会等派遣助成金

100万円

柔道・バレーボール・野球・陸上の各少年団及び個人の全道・全国大会出場のため

条例改正

・えりも町税条例の改正

改正

地方税制の改正により、再生可能エネルギー発電設備や津波防災避難施設等の固定資産税を一定割合減額するもの等。

・えりも町国民健康
保険税条例の改正

①課税限度額の改正

医療給付費分

54万円↓58万円

②税制の改正

資産割の割合を1/2とする。

③軽減判定所得の改正

軽減判定所得を左記のように引き上げることにより、中低所得層の負担を軽減する。

5割軽減世帯

1人当たり5千円引上げ

2割軽減世帯

1人当たり1万円引上げ

人事

・えりも町人権擁護委員の推薦

委員の推薦

えりも町字本町

中村 幸子 (56歳)

前委員の退任に伴う後任

表紙の紹介

6月23・24日、2日間にわたって、全道フットパスの集いが当町で開催されました。

全道各地から80名以上の参加者を迎え、今年2月、国の史跡に指定された猿留山道をメインコースとして、新緑のなか、心地よい汗をかきながら15kmを6時間ほどかけて歩きました。また、多くの方が当町の旅館やホテルに分宿され、経済的効果があったことも忘れてはなりません。
高齢化が進み、健康志向の高まりとともに、体験型の観光が叫ばれるなか、今後、同山道が当町にとって、時代のニーズに合った大きな観光資源の一つであることを再認識し、その活用を考えてゆくべきだと思います。
(今号は、北緯42度の会員でもある高松議員が、同集いに参加し、その体験談を11ページに掲載しています。)

一般質問

一般質問は、議員にとって、住民から重大な関心と期待を持たれる大事な議員活動の場です。町政全般にわたって執行機関に疑問点をただし、所信の表明を求め、議員自らの政策提言を行い政治姿勢を明らかにするものです。

国立公園の指定に向け 講演会の開催を



鈴木勇高議員

問

鈴木 議員

日高管内には、自然環境知識人が多くいるので町民意識の高揚を図るため「講演会」を開く必要があると思うが。

答

「精通した知識人」による講演会を検討していきたい

答 産業振興課長

環境省北海道地方環境事務所は本年2月に帯広市と札幌市で過去2年間の調査報告会を開催しており、本年度は活用状況を中心に調査を行い、国立公園化に向けた3年間の基礎調査を終了すると聞いている。町としても、日高管内各町・十勝管内関係市町村及び四町広域宣伝協議会などの関係機関と連携し、国立公園化に向けた準備を進めていきたいと考えており、当然、地域住民の意識高揚は重要なことと認識している。また、環境省は3年間の基礎調査の報告会を来年度以降に開催予定であると聞いており、

町内での開催を要望するほか、野生動物や植物、自然環境などについて、より認識を深めるための「精通した知識人」による講演会の開催についても、今後、検討していきたい。

空き家等の対応を



上野勝廣議員

答

被害の未然防止のため慎重に対策を進めたい

問 上野 議員

答 町民生活課長

時代の変革なのか様々な事情により出生率の低下、さらに地域を離れ、新天地へと可能性に向かって進まれる若い方々もいる。後継者不在と言う実態は地域社会の形成に大きな変化をもたらしている。空き家になった住宅が増えたこともその一つである。「風極の地」と称される当町だけに風が吹くたびに被害を心配している状況であり、今後増加の一途をたどるものと思う。①町行政において調査・指導等は②過去の被害の実態・程度は③過去に代執行をなされた経緯があると思うが順当に処理したのか。

①定期的な調査は現在行っていない。自治会等から地域に被害が懸念される空き家等の情報で現地調査し、その所有者や連絡先等を調査して、現状を改善するよう指導といった流れで空き家対策を行っている。

②空き家による周辺地域への主だった被害は今のところ発生していない。

③平成20年12月、港湾敷地内の民間事業者の建造物を町が代執行で解体したケースがある。これは、双方合意のもと、実施されたもので順当に処理されたものと考えられる。しかしながら、この件は、明確な相手方があり、合意に基づいて行われた事から、一

般的な空き家対策とは事情が異なる。空き家対策という代執行とは、改善命令に従わない所有者に代わり建物の解体等を行い、その費用を所有者に請求するもの。率直なところ、その費用を回収できないケースがほとんど。こうした事情を考え、被害の未然防止に最大限努めながら慎重に空き家対策を進めたい。



強風による飛散が心配される空き家

問 小型風力発電に関するガイドラインの作成を



高松亮裕議員

答 トラブル回避の観点から早急に検討したい

問 高松 議員

小型風力発電は、大型の風力発電よりも規制が緩く、固定買取価格が大幅に高いことから、全国的に建設が急増し、現在当町でも2基が稼働している。

一方、住宅地の近くに突然建設されるなど、近隣住民とのトラブルも発生していることから、風力発電適地といわれる道内日本海側では、多くの市町村がガイドラインを作成している。

答 企画課長

平成28・29年度に役場にも企業からの問い合わせが多数あり、事業の実施に際しては、近隣住民に事業の説明や同意を得て進めてほしいと願っていました。ところが、今年4月から20kW未満の小型風

力発電の固定買取価格が1kW55円から20円に変更されたため、今後新たな設置申請はなくなるとの見方が大勢で、町内でも4月から新規の問い合わせはほとんどない状況。

ガイドラインの施行前にすでに設置または設置申請が認められたものについては、その適用が難しく、新たな設置申請がほとんどなくなる想定される中でこれから策定されるガイドラインがどの程度有効かは不透明な部分はあるが、地域住民とのトラブルを回避するという観点から、住民説明の手順や事業完了後の撤去等を主眼としてガイドラインの策定を早急に検討したい。



本町地区の小型風力発電施設

問 百人浜地区の環境整備を

問 高松 議員

まず、百人浜駐車場から悲恋沼を通りキャンプ場へ抜ける遊歩道があるが、駐車場側の入口には無造作にロープが張られ、立入禁止になっている。これか

答 関係機関と連携し早急に対応する

ら観光客が増加してくるなか、「こういう理由で立入禁止になっており、ご迷惑をおかけして申し訳ありません」くらいの看板を設置する配慮があってもいいのではないか。

もう一点、駐車場から百人浜へ抜ける遊歩道がある。一部、倒れた木柵がそのままの状態で見捨てられ、長期間、誰も片付け整理する人がいない。訪れた方を失望させ、えりも町の観光のイメージダウンにもつながるので、定期的に見回り整理する体制をつくる必要がある。

これらへの対応について町の考えを伺うとともに、これら地区の維持管理はだれが担うのか、整備計画があるのか。

答 産業振興課長

悲恋沼脇の遊歩道は、完成後17年が経過し、老朽化が著しく危険な

状態であることから閉鎖しているが、今後、部分的な修繕で対応するかなど検討したい。利用できない旨の看板については早急に設置する。

駐車場から百人浜へ降りていく遊歩道の木柵については、えりも治山事業所が維持管理および整備を行うこととなっている。

木柵などが倒れていると観光地の景観として良いものではないので、町としても治山事業所と連絡体制の強化を図るなどの対策を考えていく。



倒れたまま放置される木柵

問 ふれあいの森公園の整備を



大坂庄吉議員

問 大坂 議員

「ふれあいの森公園」
いわゆる旧しやくなげ公園は、昔の面影もな

答 老朽化したフェンスは順次撤去予定

答 産業振興課長

く、草むらからツツジの花が咲いているものの親しまれる環境になっているとは思えない。今後、一部整地してから高齢者や各団体へ呼びかけをして花壇を作ってみてはいかがか。また、委託ではどのような管理になっ

「ふれあいの森公園」は、レストハウスを事務所、管理棟を住宅とし、地域のふれあいの場となる公園敷地として、ひだか南森林組合に貸与している。

また、園内の「シヤクナゲ・ツツジの管理」「園地内の草刈り及び清掃等環境美化」「見学者の事故防止と指導」などを、同組合に管理委託している。

園内の荒れた状態については、訪れた方が

少しでも楽しめるような環境の整備について、委託内容に含まれていることから、今後、森林組合と協議して改善を図りたい。2点目の管理については、森林組合に貸与していない部分については、町が管理することになっている。

フェンスについては、昭和50年の開園当初のものと考えられ、当時は入園料を徴収していたこともあり、また、シヤクナゲなどの盗難防止のために公園全体を囲っていたものであるが、老朽化が著しいことから順次撤去予定



現在のふれあいの森公園入口

問 ドローンの活用方法は

問 大坂 議員

近年、ドローンについては色々な目的で利用されているが、①これまでに、どのような撮影に何回利用さ

答 観光・公園管理に活用

答 産業振興課長

れ、映像は何に活用したのか、また、今年の撮影予定はあるのか。②ドローンの操縦については、すぐに飛ばそうと思っても困難があるかと思う。

また、経験が必要と思うが講習会への参加や技能証明書の交付を何人受けているのか。③当町のドローンはどれ位の距離を何分位撮影する事が出来るのか。

町が所有しているドローンは、平成27年度にふるさと納税寄付金を活用して購入しており、主に航空撮影用の小型ドローンである。

①今までに「えりも岬」「豊似湖」「しやくなげ公園」「百人浜」などを20回程度撮影し、その映像は、町の観光用フェイスブックにアップロードしている。

また、今年の撮影予定は「えりも岬」「豊

似湖」「庶野さくら公園」を予定。「庶野さくら公園」は、桜の時期は終わっているが、空撮画像を元に公園管理（樹木管理）に活用する予定である。

②操作講習会は、受講料が高額で参加していない。また、技能認証についても技能講習会を受講していない事から受けた職員はいない。

③飛行可能時間は約20分、飛行可能距離は2km、飛行可能高度は150mである。



様々な分野での活用が期待されるドローン

問 生協前の国道駐車禁止解除を

答 安全対策上認められない



石川昭彦議員

問 石川 議員

今月末にスーパーが一店舗閉店となり生協えりも店に買い物客が集中する事が予想される。既存の駐車場は暗いうえにスペースも狭く、今でも駐車出来ないうえに、他の駐車場は遠くであり高齢化も進む中で購入品を運

ぶ事は非常に困難になっている。買い物に不便がないように近くに駐車スペースを確保すべきではないか。荷物の積み込み時だけは駐車を許すという事は出来ないか。商店街近代化に深く関わった町として何らかの対応を取るべきと思うが。

答 町民生活課長

生協前や信金前などの国道一帯には、駐車禁止の道路標識がつけられ、道路交通法上、駐車できない場所となっているが、駐車する車が後を絶たない状況が続いている。何年か前には、生協前に駐車している車の陰から、子供が飛出し、あわや大惨事となる事件も発生。結論としては、こういった事故対策や安全対策上から考えたとき、駐車禁止の解除はできないと判断している。警察が、時間あるご

とに付近一帯をパトロールし、違法駐車に対し街頭指導をするが、残念ながら根本的な解決には至っていない。こうした状況の打開を図るため、本年3月、役場に関係機関が参集し、生協前や信金前の違法駐車に対する検討会を開催した。参加者は商工会、本町商店街組合、漁協、農協、生協、信金といった各事業所の方々と、浦河警察署からもオブザーバーとして参加。

会議結果は、1回の会合だけで解決につながる妙案はみつからなかったが、様々な情報交換や意見交換ができた。駐車場の問題や、町民への啓発方法の工夫などの課題も浮き彫りになり、町としては、今後もこの会議を継続し、よりよい方向性を見出していければと考えている。

問 町内の交通網整備を

答 新たな交通網整備の在り方について早急に取り組む

問 石川 議員

えりも町内の移動手段は、その大半を自家用車に頼っている現状



路上駐車で混雑する生協前

で、高齢者の運転事故が増加との報道もされている。今後運転免許の自主返納なども増加すると思われる、高齢者だけの世帯では通院や買物の手段がなくなる事になる。

が存在しているが、利便性が高いとはいえない。また、百人浜の高齢者センターへ運行している福祉バスも、複合施設の建設後の運行をどうするか、今後検討が必要と考える。

答 企画課長

各地でこの問題を解決する為に様々な取組みがなされているが、えりも町は集落が散在し、更に難しい対応が必要となると考えられ、今から自治会や当事者を含めた研究会等を立上げるべきだと思うが見解は。研究会の立上げ等、今後の協議の進め方も含め、各地の事例や制度の調査検討から、早急に取り組むたい。

運転免許の自主返納等で今後自家用車が使えなくなる高齢者をはじめ「移動制約者」の足の確保が町にとって放置できない重要課題である。

現在、町内では、公共交通機関としてJR北海道バスとタクシー



利用者の減少が続くJR北海道バス

平成30年度議会報告会「議員と語る会」を開催

◎重点的な意見・要望

2つの団体から多くの意見・要望が寄せられましたが、議会としては次の4点を重点事項として町に要望いたしました。

- 1 複合施設について
 - 若者から高齢者までが利用できる器具を備えたジムを設置してほしい。
- 2 空き家対策について
 - 強風などにより、近隣に被害を及ぼす可能性のある空き家があるので町で対策をしてほしい。
 - 今後も空き家が増加することが予想されるので、町で実態調査をするなど対応を検討してほしい。
- 3 婚活事業について
 - これまでの実施方法を検証して、どのような方法がよいか各方面の意見を聞きながら、今後も継続してほしい。
- 4 シカの駆除について
 - マナーを守らないハンターが見受けられる。事故が起きてからでは遅いので、町から関係団体に対して指導の徹底をしてほしい。



5月9日 福祉センター中会議室で行われたえりも町女性団体連絡協議会との議員と語る会
活発な意見が多数でて今後も開催していきたいとのことでした。



5月22日 福祉センター老人室で行われたえりも町青年団体連盟との議員と語る会
若者ならではの斬新な意見を聞くことができました。

今回で6回目を迎えた「議員と語る会」は、これまでの地区別での開催を休止し、初めて女性団体連絡協議会・青年団体連盟と実施しました。きたんのないご意見をいただき、充実した報告会となりました。ご参加いただいた皆様には感謝を申し上げます。来年以降も、他団体との意見交換も視野にいれながら、よりよい報告会となるよう努めていきたいと思っておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

先進地行政視察報告

苫前町「風力発電事業」

平成30年7月2日、苫前町役場にて風力発電事業の視察研修を行いました。苫前町内の風力発電所は、2か所に3つの風力発電所があり、1つ目は、町運営の苫前夕陽ヶ丘風力発電所（総発電出力2,200kw・事業対象面積 約3.97ha）、2つ目は、民間運営のユーラス苫前グリーンヒルウィンドファーム（総発電出力20,000kw・事業対象面積 300ha 町営牧場用地内）、3つ目は、民間運営の苫前ウィンピラ発電所（総発電出力30,600kw・事業対象面積 300ha 町営牧場用地内）で、3つの総発電量は42基で52,800kw。総事業費は、約127億円でありました。

また、送電線の容量が増やせず、平成12年以降、新たな風車が建設できない状況が続いているとの事でした。

苫前町は、日本海沿岸特有の「強風」を有効な資源としてとらえるなか、風力発電事業を大きな「まちづくり事業」の一環として位置付け、積極的に取り組んでおります。町運営の施設で発電した電力は、風車のライトアップや周辺の公共施設への消費電力として活用し、余剰電力は電力会社に売電している。

問題点としては、航空障害灯の設置義務（60m以上規制あり）、バードストライク・雷による故障や設置場所の考慮（崖に近い場所は下から吹き上げる風のため適さない）などがあげられる。

心配されていた漁業への影響は、今のところ問題はないとのことでした。

えりも町も強風地域で、民間風力発電の建設計画があるが、当町においては送電線や道路が整備がされておらず、大きな課題となることを改めて知らされました。今後に向けて有意義な視察であったと思います。



民間運営
「上平グリーンヒルウィンドファーム」



町運営
「夕陽ヶ丘ウィンドファーム
・風来望」



苫前町役場にて風力発電
事業の説明を受ける

石狩市厚田「厚田港朝市」

平成30年7月4日、午前10時札幌のホテルを出発し、約1時間ほどで厚田漁港に到着しました。前日の大雨警報が解除されたものの、時折雨が降るあいにくの天気で、4～5名のお客さんしかいませんでしたが、漁港隣の広場に各水産会社の1坪ほどの屋台がコの字型に20軒ほど並び、タコ、ムラサキウニ、おひょう、ホタテなどの海産物が売られていました。

4月～10月中旬まで毎日、営業時間は午前7時～午後2時くらいまでで、5月と6月には月1回、浜値より2割引きになる「厚田港さかなデー」も開催され、大勢のお客さんで賑わうそうです。

滞在時間も短く、詳しい内容を聞くことはできませんでしたが、えりも町でも4月の「うに祭り」や10月の「海と山の幸フェスティバル」などで、新鮮なえりもの魚介類を格安で販売し、多くのお客さんに喜んでもらえる機会が得られれば、よりいっそう町民の利益にも繋げていけるのではないかと思いました。



多くの来場者でにぎわう「厚田漁港さかなデー」

議員研修を終えて

大坂 庄吉 議員

平成30年度「北海道町村議会議員研修会」が7月3日、札幌コンベンションセンターにおいて開催され、全道144町村から議員・事務局関係者約1500名の参加がありました。

はじめに、歴史家・作家として活躍中の加来 耕三氏が「明治維新から150年 現在そして未来を考える」と題して講演されました。

今、歴史上の人物がテレビでドラマ化されているが、幕末の名君の一人である外様大名、島津 斉彬が活躍した話は、実際とは、かけ離れている内容だと、ユーモアに話してくださいました。

また、未来に向かうためには、一度立ち止まって、歴史はどうだったのか、裏付けがなされたのか、何のために人は生きているのか、冷静に物を見る力、過去を振り返り見

る力が重要だと話してくださいました。

続いて、日本大学法学部 岩井 奉信氏が「現代日本政治と政局のゆくえ」と題して講演されました。

アメリカの株価変動が、日本経済に及ぼす影響が大きく、強い経済政策を推し進めるリーダーが必要であり、これからのような総理がよいのか予想しながら熱弁されました。

とても内容の深い有意義な講演であり、これを糧に、今後の議会活動に役立てていきたいと思っています。



札幌コンベンションセンターでの北海道町村議会 議員研修会

所管事務調査

総務文教常任委員会 委員長 渡部泰
 副委員長 笹谷廣喜 委員 川村一治
 鈴木勇高 橋本維応
 産業民生常任委員会 委員長 大坂庄吉
 副委員長 平野正男 委員 上野勝廣
 石川昭彦 高松亮裕
 議長 成田一人

調査日 平成30年5月25日（金）

庶野放課後児童クラブについて

庶野小学校の余裕教室を改修し、本年4月から開設している庶野放課後児童クラブには、5月23日現在で16名の児童が登録されているとのことであるが、保護者が仕事などのため不在となっている家庭から、その子供たちを預かる施設であるので、職員・指導員においては、施設内での事故や怪我のないよう子供たちの見守りには十分注意を払い、安全確保に努めていただきたい。また、今後として、担当者からも説明があったが、施設利用をしている子供たちの学習面をサポートできるよう、退職された教員等の人材を活用するなど、運用面の充実も検討願いたい。



整備された庶野放課後児童クラブ

庶野小学校トイレ等改修工事について

庶野小学校では、現在、新校舎側のトイレ1か所を児童と教職員で使用しており、数が少なく不便であることから、この解消を図るため、古くなり使用していない旧校舎側のトイレを簡易水洗便器に取り替える改修を行う旨、現地において担当課から説明を受けた。予定されている改修工事では、新設される便器の数が既存の数より減っているが、休み時間などに子供たちの使用が集中することや学校行事などで保護者や地域住民の使用も考えられることから、今後の児童数の推移を考慮しながら改修内容について学校側と協議のうえ、再度、検討願いたい。なお、本工事については、子供たちが安心して快適に過ごすことができる環境整備を提供していくためにも早急な完成を望むものであるが、施工に当たっては、子供たちの安全に配慮しながら事故のないよう十分に注意願いたい。

苫別3号橋架換工事について

平成15年に建設された苫別3号橋は、主要集落を連結する町道歌別・苫別線に架かる鋼製の橋で、地域産業である草地や森林管理のために利用されている。

道路管理者に義務付けられた橋梁点検を実施したところ、主桁の腐食や変形、橋台のひび割れが確認され、各部材の損傷状況を考慮すると予防的な修繕計画が困難であることから、安全性の確保のために工事を行った旨、担当課から説明を受けた。本工事は、鋼製の橋をボックスカルバートに変更し、護岸のすりつけや道路の一部を舗装するものであり、おおむね適正に施工されていたことを確認することができたが、近年多発する大雨のような自然災害時に道路機能を保つなど、市民の暮らしにおける安全・安心を確保することが重要な課題であることから、今後として、維持管理の徹底に努められたい。また、町内における橋梁については、点検や修繕、架換工事を計画的に進め、事故等につながる損傷を早期に発見するとともに、生活や一般交通に支障を及ぼさないよう橋梁を最適な状態に保ち、道路の安全性・信頼性の確保に努めていただきたい。



完成した苫別3号橋

6月23日

午前11時に福祉センターに集合し、数台のバスに分乗して東洋生活館へ移動。油駒神社、守人を経由して東洋漁港まで。途中、守人で意外と大きい短角牛を見ながら、コロッケを御馳走になり、総勢100名ほどで歩いた。

快晴・微風、えりも岬周辺の気候としては、希にみる最高の条件。

午後5時から、福祉センターで交流会。

12人ずつ12テーブルに分かれ、時鮭の刺身・銀聖の焼き魚・灯台つぶのみそおでん・ます汁等々、テーブルいっぱいのにえりもの幸を囲んでビールで乾杯。

スタッフは1テーブルに2名座ってくださいとのこと席につく。

せっかく来てくれたのだからと料理やビールを運び、隣の人と話すうち、

なんと、このテーブルのメンバーは、翌日私がリーダーを務める猿留山道コース第2班の参加者の方々だとわかった。

午前7時半に福祉センターへ集合し、旧肉牛牧場へ移動。猿留山道コース、大観望コースに分かれ、それぞれ50名ほどが参加。

猿留山道コースは4班に分かれ、第2班(約10

到着。参加者の表情も緩み、眼下の豊似湖をバックに盛んにシャッターを切ってひとときを楽しむ。終盤は、長いはしごを降りる箇所が2箇所。普段は歩き慣れている参加者も、はしごを降りるといふ機会があまりないせいか、恐る恐るゆっくりと降りる。

第27回全道フットパスinえりも 天候にも恵まれ参加者満足の声



交流会で談笑する参加者
(福祉センターにて)

名)のリーダーとして前日の方々と再会し、準備運動の後、出発。うす曇。ウォーキングには暑くもなく寒くもなくちょうどよい。しばらくは林道を歩くとところどころに道いっぱいに広がる泥の水たまりがあり、近くにあった丸太の切株を足場にしようとうと水たまりの端におい

休止。予定より遅れているとのことで、おにぎりと唐揚げの昼食を早めにとり、早々に出発。川幅5〜6mのガロウの川は思ったより水量が多く、安全に渡るため丸太を置いたり、ロープを張ったり、男性陣の活躍で全員無事に渡りきる。片側が急斜面の狭い道を慎重に歩き、沼見峠に

慎重にはしごを降りる参加者とサポートするスタッフ



6時間にわたる15kmのコースも一人の脱落者もなく終点のカルシコタンにゴールインし、ハイタッチで喜び合う。福祉センターへ戻り、解散式後、参加者ごとバスで帰路につく。来年開催の恵庭フットパスでの再会を誓って。

この人に聞く

えりも岬小学校 事務職員

かまだ すみお

鎌田 澄夫さん



Q いい思い出ですね。古賀選手は強かったですか。

A はい。自分では全く歯が立ちませんでした。

Q 広尾町では当時柔道が盛んだったと聞いています

A 中学校は十勝管内では強豪校で、先輩には現日本相撲協会理事長の元横綱北勝海関 保志さんもいて、今でも親交があります。

Q 30年以上、子供達の指導を続けているそうですが、何か注意していることは。

A 練習は厳しいと思いますが、試合で勝たせてあげたいのは、もちろんですが、それ以上に柔道は、ある意味危険なスポーツです。怪我をさせないために、真剣に取り組んでいます。

Q 時間が出来たら、何をしたいですか。

今回の「この人に聞く」は、えりも岬小学校 事務職員の仕事をしながら、柔道少年団の指導をされている鎌田 澄夫さんにお話を聞きました。

A 今は全くやれていませんが、好きな魚釣りや温泉巡りもしたいです。

Q 来月には二度目の全国大会出場と聞いていますが、えりもの子供達をこれからも宜しく願います。

A えりもの子供達は、良く手伝いをしているせいか、体も強く素直で練習も頑張ります。練習する場所も色々変わったりするので保護者の方々には、とても苦勞をおかけしています。たくさんの方に応援してもらっている事に、いつも感謝の気持ちでいっぱいです。お忙しい中、有難うございました。

編集後記

えりも町全地区での昆虫漁が解禁になりましたが、全国的にみても、今年の天候不順は一体どうしたことだろう。多数の死者がでた大雨による大災害、その後、の異常な高温。炎天下での懸命な復旧作業には、多くのボランティアの方々も各地から集まっているようですが、我々の想像を絶する労働に暑さが加わり、倒れる人も少なくない。1日も早く元の生活に戻れますよう願っているところです。

当町の基幹産業である昆虫漁もこれからの天候に期待し、昨年を上回る水揚げができますよう祈念しております。皆様、健康には十分気を付けて、この夏を過ぎましょう。(川村)

広報広聴常任委員会

委員長

副委員長

委員

高松 亮裕

大坂 庄吉

川村 一治

石川 昭彦

橋本 維広

Q 現役選手時代の思い出は。

A やっぱり試合で勝った時の事は覚えています。自分分は78kg級ですが全道大会で準優勝した時は、嬉しかったです。全国大会では、後にオリンピックで金メダルを取った古賀選手と対戦した事もありました。

議会の動き

5月16日	ワクワク森林づくり植樹祭 広報広聴常任委員会
5月20日	えりも町消防訓練大会
5月25日	二常任委員会合同所 管事務調査
6月14日	戦没者追悼式
6月15日	議会運営委員会
6月16日	広報広聴常任委員会
6月22日	全員協議会 第1回定例会
6月26日	日高東部消防組合臨時会
6月30日	札幌えりも会
7月2日 ～4日	道内視察研修 全道議員研修会
7月17日	広報広聴常任委員会